

平成20年度 丹後広域振興局 運営目標 達成状況

中期ビジョン	行政経営		
事項 1	管内市町、府民との連携強化による行政経営の推進		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 50%;">運 営 目 標</th> <th style="width: 50%;">取組及び達成状況</th> </tr> </table>		運 営 目 標	取組及び達成状況
運 営 目 標	取組及び達成状況		
<p>○地域力再生プロジェクト支援事業交付金の効果を検証・分析することで、地域団体の活動がより充実するよう支援するとともに、地域団体間での情報交換ができるネットワークを構築することで、地域力の再生効果を高めます。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域力再生プロジェクト交付金において第1次募集で30団体、第2次募集で25団体を、局・市町が協働して支援 ・3月8日に、地域力再生フォーラムを開催し、NPOと地域力再生団体との意見交換会等を実施。より広範囲なネットワーク化を推進 		
<p>○管内2市2町との情報共有と連携を強化するため、管内市町長、副市長・副町長との意見交換会を年4回以上開催するとともに、課長、職員レベルでも連携を密にし、地域課題に対応していきます。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内市町長、副市町長との意見交換会を開催（9月、11月） ・広域市町村圏事務組合理事会に局長が出席し、管内市町長と意見交換（5月、12月） 		
<p>○丹後活動プランに基づく事業を府民の意見を踏まえて拡充していくため、振興局ホームページの活用に加え、「たんご活動プランニュース」の定期的発行（年2回、全戸配布）、「たんご活動プランニュースレター」の発行（年2回）により、府民に多面的な情報提供を行います。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域戦略事業等の取組を紹介する「たんご活動プランニュース」を12月と3月に発行 ・「たんご活動プランニュースレター」を3月末に発行 		

地域振興計画	観光振興と交流・定住の促進		
事項 1	多様な資源を活用した新たな観光・交流・定住施策の展開		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 50%;">運 営 目 標</th> <th style="width: 50%;">取組及び達成状況</th> </tr> </table>		運 営 目 標	取組及び達成状況
運 営 目 標	取組及び達成状況		
<p>○丹後広域観光キャンペーン協議会と連携し「私のふるさと丹後」を目指した新たな観光戦略事業を積極的に展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光入込者数目標 600万人 ・「丹後ふるさと観光大使」などの人材ネットワークを活かす中で、テレビをはじめメディアを活用した丹後の食、自然等の丹後の観光PR ・季刊情報誌「食遊楽里」を各号7万部発行し、JRの関西主要駅や道の駅、高速道路SA、観光施設に配布しきめ細やかな観光情報を発信 	<p>×</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶観光入込者数は12月集計だが、現時点では未集計。GW期間中は、減少（対前年比90.2%）。夏期の主要地点は、猛暑や燃料価格高騰等により、海水浴客は前年並（99.8%）、高原施設は減少（86.3%）、観光施設は微減（98.9%） ▶丹後の豊かな食や景観を「都のかほり」（6月）、「鉄道オヤジの行き当たりバッサリ」（7月）、「ちちんぷいぷい in オーサカキング」（8月）などのテレビ番組や、「大人組」、京都新聞「T&T」、京都リビングなどの雑誌等を活用して広く情報発信するとともに「丹後ふるさと観光大使」による丹後観光PRを積極的推進。また、西日本高速道路㈱と連携し、「冬の丹後」キャンペーンとして宿泊プレゼントや施設の割引特典等を掲載したパンフレットを8万部発行 ▶季刊情報誌「食遊楽里」を（6月、9月、12月、3月）各7万部発行し、関西のJR主要駅や道の駅、高速道路SA、観光施設等に配布し、奥深い丹後の魅力をきめ細かく発信 		

運 営 目 標	取組及び達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・「丹後ふるさと検定」の実施（受検者130人以上） 丹後地域の人々が地域の魅力を再発見するための学習機会を提供し、観光ガイドの育成や地域のもてなし意識を向上。 ①検定用テキストブック「丹後新風土記」改訂版の発行 ：平成20年6月～ ②検定向けセミナーの実施：9月（集中講座の開催） ③検定日：10月下旬 ④検定合格者を「丹後観光ロコミ大使」として組織化し、活動を強化 ⑤丹後教育局の「らぶ・らぶ丹後『ふるさと夢・未来』事業」と連携したPR ・大都市圏（東京、大阪）で大手旅行会社、マスコミ、丹後観光大使を対象に観光資源のPRとともに、トリガイ、イワガキ、カニ、カキ、アワビなどの海産物、特A「丹後コシヒカリ」、京野菜などの農産物、丹後産焼酎、地酒、加工食品の試飲試食会、丹後ちりめんなどの丹後特産品の展示PRを実施 ・中国、韓国、台湾、香港などの旅行会社、マスコミを対象としたファミトリップ（下見旅行）の実施、観光関連団体を対象とした中国語講座の開催及び外国語版観光PR用DVDの作成 ・海、山、里の豊富な食材を活用した丹後ならではの食を開発し、市町・観光団体と連携したPRイベントを実施 ・農林水産業や地場産業等の様々な体験メニューを掲載した「体験マップ」を改訂し、体験施設の魅力を幅広くPR ・平成21年開催予定の「自然公園ふれあい全国大会」も視野に、ネイチャーガイドのガイドブックを作成、養成講座を開催（5コース） ・鉄道の日（10月14日）に因み、「タンゴ悠遊号」などKTRの企画商品と連携した「のんびりローカルな鉄道の旅」等観光魅力づくりの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ▶「北京都丹後ふるさと検定」（10月）を3会場で実施（受験者96名、合格者71名）。合格者のうち新たに37名を「丹後観光ロコミ大使」に任命（計109名）。また、検定用テキストブック「丹後新風土記」改訂版を2千部発行し、管内小・中・高等学校にも配布・PR ▶検定に向けてセミナー（9月）を2回開催（受講者85名）。新たな取組としてセミナーの講演ビデオ（DVD）作成し貸出（25件） ▶「丹後観光ロコミ大使交流会」（4月、3月）を開催。基調講演、グループに分かれて意見交換を実施（参加者4月：46名、3月：34名） ▶「丹後PRフェアin東京」（6月）、「丹後PRフェアin大阪」（11月）を大手旅行会社、マスコミ関係者等を招き開催（参加者計258名）。観光情報の発信、地場産品等の展示、「丹後トリ貝」「イワガキ」「カニ」「ブリ」「丹後産コシヒカリ」など農水産物等の試食、PRを実施 ▶香港の旅行会社から5名を招聘し観光施設及び体験施設を案内（11月）、台湾の旅行会社、マスコミ等から8名を招聘し観光施設を案内（1月）。また、はじめて韓国のパンスターフェリーが入港。定期運航を目指して取組中。韓国（5月）、タイ（7月）、香港（3月）の雑誌取材に対応。中国語講座を2会場（5月～6月）で実施（19名受講）。英語版HPを作成し、広く外国からの誘客を推進 ▶「今が旬！春の山菜食味会」（34名参加）を植生現場見学と併せ実施 ▶「ほんまもん体験事業」座談会（6月）、「お魚水揚げ見学会」（7月）を実施。体験メニュー冊子を作成・HP上でも公開 ▶「丹後ネイチャーガイド養成講座」の開講式（7月）を皮切りに、9コースを実施（受講者は130名）。また、丹後松島・野間・天文の3コースのマップを作成し、受講者によるモデルツアーを3月28日、29日に3コース実施 ▶KTR駅構内等を利用した高校生のコンサート及びおかみさんのアテンドによる車内物産販売等（11月）を実施。KTRと連携して魅力ある企画を提案・PR。平成21年4月から、おかみさんが、お出迎えする「KTRおかみさんアテンド列車」を運行予定

運 営 目 標	取組及び達成状況
<p>○丹後地域内の企業、商工観光団体、府、市町が一体となって結成した「丹後きものネット」を中心に、昨年に引き続き、ゆかた、きものを楽しむ日、月間を設定し、和装のPRとともに、観光資源の創出を図り、和装振興と観光産業を活性化します。</p> <p>・きものパスポートマップの作成などの取組に加えて、次の取組を実施。 天橋立きものまつりでの「丹後丸ごときもの市」や各市町での和装姿による参加を促すイベントへの助成を行い開催するとともに、「きものフォトサービス」の実施などにより、きものイベントへの「きもの」来場者の増加を図る。(①92,550人→②2,800人)</p>	<p>○</p> <p>▶ゆかたを楽しむ月間には、ゆかたポスターの作成と、新たにショッピングセンターや高校などで、きものクイーンによるゆかたキャンペーンを行い、ゆかた着用を呼びかけ。ゆかたを楽しむ日には、きものNET参加機関が業務中にゆかたを着用しPRを実施。各地域の夏祭りイベント等でフォトサービスを実施(6箇所約400名)。ゆかた着付け教室では、4会場60名が受講。丹後きものクイーン2期生を募集し、16名の応募の中から4名を任命</p> <p>▶きものを楽しむ月間には、きもの学(楽)講座を開催し全5回で延べ180名が受講、きものパスポートまっぴの発行と丹後七姫すたんぷらりーの実施により、特典を受けた人360名、らりー応募者24名。丹後きものまつりin天橋立ではきもの智恵の市やよろず相談、フォトサービスなどに1,000名の参加。きもの着用の機会づくりイベント「ワインと音楽の夕べ」には40名が参加。また、与謝野町のちりめん街道ミュージアムへ230名、京丹后市ふるさとジャンジャン祭150名、京丹后市きものまつり250名が参加(合計2,694名)</p>
<p>○「期間定住」や「定住」への円滑な移行を促進するため、定住希望者の多様なニーズに応じて「地域の魅力」を総合的に提供する経営体(丹後「農のある暮らし百貨店」)が、平成19年度に地域資源を商品化したものを商品として売り出します。</p> <p>①集落合意のためのワークショップを開催し、丹後「農のある暮らし百貨店」となる経営体をつくります。(1経営体)</p> <p>②経営戦略づくり等の専門家による実践講座を開催して、百貨店を運営する人材を育成します。(10名)</p> <p>③ホームページ作成や旅行者への売り込みを実施して、商品の売り出しを開始します。(3商品、顧客数50名)</p>	<p>○</p> <p>▶常吉村営百貨店を丹後「農のある暮らし百貨店」の経営体として育成中(1経営体)。ワークショップは商品づくりを含めて7回開催</p> <p>・人材育成のための研修会を11月と1月に開催(10名)</p> <p>・8月、9月及び11月に計3商品を試験販売(顧客数計37名)</p>

地域振興計画	農林水産業の振興	
事 項 1	地域の特色を引き出す農林水産業の振興	
運 営 目 標	取組及び達成状況	
<p>○丹後国営開発農地で新しい茶の産地づくりを進めるとともに、製茶工場の建設や販売戦略を推進します。</p> <p>・平成20年4月現在の総植栽面積40haを平成22年3月末に50haに拡大(新規植栽面積平成20年度5ha、平成21年度5ha)</p> <p>・平成22年4月に製茶工場が稼働できるよう、京丹后市や農業団体との連携を強めて製茶工場建設計画の具体化を支援する。</p>	×	<p>▶新規植栽については、資金・労力・土地利用調整等の諸課題により先送りせざるを得ない状況となり、面積としては、2.1haに止まった。</p> <p>・製茶工場建設のための国や融資機関等との事前協議が完了した。</p> <p>・綾部市の製茶工場で製茶研修を開催(農業法人構成員5名参加)するなど技術向上のための取り組みを実施した。</p>

運 営 目 標	取組及び達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人の構成員対象に他産地の製茶工場での実習等研修を行い、製茶技術者を5名育成する。 ・山城地域の茶商との交流会を開催し、茶商に対して良質茶産地としての理解と評価を得る取組を展開する。(茶商10社以上) ・引き続き、酸度矯正による土壌改良を生産者に技術指導し、順次生育不良茶園の改善を図る。(約0.5ha) 		<ul style="list-style-type: none"> ・山城地域の茶商(6社)、茶協同組合等(5団体)及び茶業会議所との交流会を京丹後市で開催し、地元産茶の試飲(求評)と茶園見学等を通じて京丹後市産茶に対する理解を深めた。 ・硫黄華による高アルカリ土壌の酸度矯正と客土による土壌改良を指導し、生育不良茶園(0.5ha)の改善を図った。
<p>○「丹後コシヒカリ」の「特A」評価を維持するため、丹後米改良協会や丹後農業研究所と連携して品質向上技術の実践をさらに進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良食味米実証ほ4箇所を拠点とした生産技術指導の展開や良食味共励会等の開催による特A評価への技術研鑽を拡大 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ▶20年産米において、昨年に続き食味ランキングで「特A」を獲得した。 ・良食味米実証ほ6箇所を拠点に関係機関と連携して、4回の互見会を開催して良食味米生産技術の実証と生産者への技術伝達を行った。 ・良食味共励会への参加者が48名(6名増加)となり、特A評価の産地維持へ向け、リーダーとなる意欲ある生産者が増加した。 ・コシヒカリの産地全体の生産技術の高位平準化を図るため、150ヶ所において各2回の「青空教室」を通じ技術普及を図った。
<p>○集落にあった営農体制の充実と経営安定のための経営戦略づくりを進めるため、管内6集落を対象に、モデル集落営農組織を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人化を目指す集落営農組織への法人化実践講座の開催 ・米の直播栽培実証ほを設置し省力低コスト米生産の技術普及 ・集落組織の経営条件に応じて、みず菜や機械化栽培による小豆などを組み合わせた水稻複合経営のモデルづくりを推進 	○	<ul style="list-style-type: none"> ▶6集落を対象に法人化実践講座等を開催し、生産法人(2集落)や新たな集落営農(1集落)、水稻複合経営のモデル集落(3集落)ができた。今後他集落への波及を図る。
<p>○みず菜などのブランド京野菜生産を振興し、出荷量の増加を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みず菜450トン(平成19年度実績441t)、九条ねぎ70トン(平成19年度44t)、聖護院大根85トン(平成19年度21t)の年間出荷量を実現 ①みず菜と九条ねぎでハウスを複合的に有効利用できる、京野菜複合経営モデルの普及推進と担い手の育成 ②聖護院だいこん・えびいも・伏見とうがらし・賀茂なすの新規導入する合計面積を1ヘクタール以上確保 ③府試験研究機関で開発された紫ずきん2号の普及を促進するため、栽培者10戸で展示実証 	×	<ul style="list-style-type: none"> ▶みず菜生産量(3月まで): 393t(計画比87.3%、H19年比89.1%) 【原因】春先から価格低迷による生産意欲の減退のため生産量が減少 ▶九条ねぎ生産量(3月まで): 51t(計画比72.9%、H19年比115.9%) 【原因】全体で91t、1産地のブランド下産地化が未達成のため ▶聖護院大根栽培生産量: 78t(計画比91.8%、H19年比371.4%) 【原因】約15aに生理障害が発生したため ▶複合経営モデル、推進4品目面積、紫ずきん2号の数値はいずれも増加した。 ①複合モデル戸数は、3戸増加。(H19年11戸→H20年14戸) ②4品目新規導入面積は、86a増(H19年402a→H20年488a) ③紫ずきん2号栽培実証戸数は、11戸で61.5aを確保

運 営 目 標	取組及び達成状況	
<p>○丹後地域の農業生産を支える多様な経営体や人材の確保と育成を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年農業者の経営者能力向上を支援（経営能力セミナーの開催4回） ・個別経営体の法人化を支援（2経営体の立ち上げ） ・集落営農基礎講座（7回）の開催と先進モデル集落（5集落）の運営支援 ・多様な担い手を対象に基礎的な農業技術の習得支援（農業基礎講座の開催7回） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ▶若い農業者（73名）を対象に、①丹後の異業種から学ぶ②地域の農業経営者から学ぶ③自分の経営を考えようと題して、セミナー（3回）を開催し、若い農業者の経営改善や法人化への意欲が高まった。 ・集落営農基礎講座を6集落を対象に、集落営農関係5回、法人化関係2回を開催し、法人化（2集落）や集落営農（1集落）の活動が始まった。 ・都市からの移住者など多様な担い手（17名）を対象に農業基礎講座を7回開催し、その中から2名が営農への準備を開始した。
<p>○農産加工や直売活動に取り組むグループのネットワーク化を図り、豊かな地域特産物のPRと販売額向上への取組を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同市の開催（京丹後市管内1回、宮津市管内1回） ・加工直売組織の経営向上を支援（加工直売セミナーの開催3回、出張セミナー5回） ・新商品開発で売上増（2事例） 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ▶各市町で開催の合同市を支援し地産地消活動が活発化した。 宮津市 2回開催（7月6日、11月9日） 京丹後市 2回開催（7月21日、11月8・9日） 与謝野町 1回開催（11月16日） ・加工直売組織の経営向上を支援するため加工直売セミナーを3回開催、各グループのニーズに応じた出張セミナーを5回開催した。 ・ブドウやダイコンの加工品を開発し、新商品として売上増（2事例）につながった。
<p>○丹後産水産物のイメージアップと付加価値向上のためのブランド化と生産体制の強化・安定供給をめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トリガイ、イワガキの販売促進会議（2回開催）。丹後水産物利用拡大キャンペーンの実施 	×	<ul style="list-style-type: none"> ▶丹後とり貝及び育成イワガキの今年度出荷に係る販売促進会議が4～5月に2回開催され、出荷方法や効果的な情報発信などについて検討が行われた。 ・引き続き漁業者及び府漁連が中心となり、販売会議や研修会を開催し、今後の販売促進に係る取組方向の検討や、関係者の意識向上を図っていく。 ・地元市や丹後広域観光キャンペーン協議会、漁業者団体等と連携したイベントの実施、丹後水産物の食材提供や試食会などのPR活動等を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・磯根資源を活用したつくり育てる漁業の振興と地域特産品の育成 宮津市栗田地区での丹後とり貝の生産拡大（受入種苗数7万5千個、販売額10百万円） 宮津湾でのトリガイ養殖の開始（区画漁業権の設定） 宮津市田井地区でのアワビ種苗放流数3万個 簡易アワビ陸上養殖の普及 ・担い手の確保・育成（漁業技術講習会等の開催2回） 		<ul style="list-style-type: none"> ▶宮津市栗田地区において、7月に丹後とり貝種苗約6万個を受入れ、育成を開始した。また、今年度の丹後とり貝販売額は約7百万円であった。 ・宮津湾において、2研究グループが区画漁業権を設定し、トリガイ養殖を開始した。 ・宮津市田井地区では、3月中旬にアワビ種苗3万個を放流。今後、潜水漁法導入による放流アワビの効率的漁獲や種苗購入費積立制度の導入を進め、アワビ栽培漁業を推進する。 ・簡易アワビ陸上養殖については、今秋から新たに2経営体が参入し、現在、京丹後市（久美浜地区、中浜地区）及び伊根町（伊根地区、蒲入地区）で4経営体が養殖を実施している。 ▶6月に磯根漁業者を対象に、アワビ栽培漁業に関する研修会、潜水技術講習会を各1回（計2回）開催した。 ・3月6日、16日に漁業・養殖業技術経営研修会を2回開催

地域振興計画	織物、機械金属等地域産業の振興	
事項 1	地場産業の振興と新分野・新産業の創出による地域経済の活性化	
運 営 目 標		取組及び達成状況
<p>○丹後織物の地域ブランドを生かして売れるものづくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無地・紋織物のリーズナブルでお洒落な取り扱いやすい「KIMONO」と、通気性や吸湿性など機能性に優れた着心地の良い婦人服地や、開衿シャツなどのメンズウェアを15点以上開発 ・丹後織物のブランド下化を図るため、機業とデザイナーのコラボレーションにより、概ね4グループ24機業で和洋装地や生活関連商品の新商品開発で企画力強化と販路開拓をさらに実践 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ▶トレンドをとらえた「売れる和・洋装素材」を38点开発 <ul style="list-style-type: none"> ・和・洋装素材の開発と丹後織物求評会（京都市、11月25日～27日）での展示発表 ▶4グループ29機業（実機業数）が専門家とのコラボによる新商品開発を実践し、展示発表会の開催、販路開拓を推進 展示発表会参加者 計1,848人 <ul style="list-style-type: none"> ・和装製品開発グループ① 9機業 検討会9回 30点新商品開発 「夢そしあるキモノ展」11月11日～14日（京都市）（246人） 「夢そしあるキモノ・東京展」3月14日～15日（東京都）（133人） ・和装製品開発グループ② 6機業 検討会8回 21点新商品開発 自主的な「絹100反白の選択展」10月2日～8日（東京都）（1,194人） 展示発表会3月28日～29日（京都市）（25人） ・洋装製品開発グループ① 7機業 検討会6回 86点新商品開発 「日本の技・丹後シルク展」10月23日～29日（神戸市）（220人） 自主的な展示販売会4回（大阪、東京、仙台、松山）開催を支援 ・洋装製品開発グループ② 7機業 検討会3回 7点新商品開発 展示発表会3月13日（東京都）（30人）
<p>○「北部産業活性化拠点・京丹後」の整備を進め、織物・機械金属振興センター等の移設と併せて平成20年秋に全面オープンします。</p> <p>また、産学公が結集する「人材育成会議」を開催し、計画的な人材育成事業を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後機業の技術伝承と後継者の若手人材を10名以上育成 ・機械金属業における高度機械加工技術者を5名以上養成 ・織物、機械金属の技術相談を通じて在職者の人材育成延べ3,000名以上 ・各種研修会、講習会の実施による受講者延べ3,000名以上 ・拠点における人材育成研修についての有用な評価方法を検討し、その手法により評価結果を公表 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ▶織物・機械金属振興センター等は9月22日までに移転を完了、名称を「丹後・知恵のものづくりパーク」と決定し、10月23日にオープニング式典及び記念講演を行い、全面オープン ▶丹後織物ひとつづくりコース（2コース）で、丹後機業の後継者11人を育成 <ul style="list-style-type: none"> ・同コース（15コース）で延べ75人の参加を決定、現在も追加募集中 ▶織物、機械金属の技術相談を通じて在職者の人材育成延べ4,760人 <ul style="list-style-type: none"> ・織物、化学関連 技術相談 4060件、依頼試験 1830件 ・機械金属関連 技術相談 700件、依頼試験 168件、機器貸付 372時間 ▶各種研修会、講習会の受講者（丹後・知恵のものづくりパーク等）延べ6,091人 <ul style="list-style-type: none"> ・丹後産地経営者育成講演会（延べ130人） ・丹後織物人材育成研修 ひとつづくりコース（延べ236人） （繊維基礎、織機調整、紋織技術、染色等） ・丹後織物人材育成研修 ものづくり実践コース（延べ8人） （新商品、新技術等） ・ものづくり基礎技術習得研修（延べ1674人 3クール実施） ・機械金属基礎セミナー（延べ582人） ・女性ものづくり基礎技術習得研修（延べ60人） ・切削加工・研削加工入門講座（延べ40人） ・金属熱処理技術研修（延べ44人） ・知的財産入門セミナー（延べ29人）

運 営 目 標	取組及び達成状況	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ K E S取得セミナー（延べ32人） ・ 鍛造基礎技術セミナー（延べ151人） ・ 製図基礎講座（延べ66人） ・ 寸法測定工具取扱講習会（延べ38人） ・ 機器活用セミナー（延べ70人） ・ 3次元CAD/CAM講習会（延べ30人） ・ NC工作機械講習会（3軸マシニングセンタ等）（延べ67名） ・ 開発・設計力を備えたのものづくり研修（延べ138人） ・ 中堅技術管理者研修（延べ252人） ・ 北部ものづくり人材・パワーアップ緊急対策事業（延べ1915人） ・ スキルアップ講座（機械材料と熱処理等）、品質管理等マネジメントコース ・ その他（延べ529人） ▶ 丹後織物ひとつづくりコースで、丹後機業の後継者22人を育成 ▶ NC工作機械講習会で、高度機械加工技術者13人を養成（5軸マシニング機械加工、複合旋盤機械加工、微細加工等） ▶ 来年度も引きつづき、地域ニーズに対応した計画的な人材育成事業を実施予定
<p>○新事業や地域資源の活用など意欲ある中小企業の支援を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業訪問や情報提供を強化し、産学公連携や新分野進出等に取り組む企業を2社以上支援 ・ 消費者との接点拡大とものづくり産業の活性化に向けて、「ええもん工房」づくりに35工房以上参加、来場者1,000人以上。 ・ 機業の海外展開は、民間主体での活動に道筋をつける視点で、引き続き技術的支援を継続する。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「丹後・知恵のものづくりパーク」トライアル・ゾーン（地元企業が新分野進出に活用）に、新たに1社が入居し、合計3社の新分野進出の事業活動を支援 ▶ 丹後ちりめんを活用した軒先飾り・マップ作成、研修会等の開催により、21工房が年間を通じて一般公開中 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10～11月には、「丹後ええもん工房」で計36工房が公開。マップの新聞折り込み、ホームページ、府・市町広報誌掲載等でPRし、来場者延べ約2,000人が訪れる。 ▶ 海外展開への取組体制強化のため、参加企業5社でLLP（有限責任事業組合）を立ち上げ、「きょうと元気な地域づくり応援ファンド支援事業助成」を活用し、丹後テキスタイルの魅力を有効に伝える手段として、丹後織物を素材としたウエディングドレス2着を「丹後ホワイト」ブランドで10月に製作 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1月と3月にフランス（パリ）で展示会を開催（1月展示会の一般来場者は約1,200人）、ウエディングドレスの展示、個別商談活動等の取組を（財）京都産業21北部支援センターとともに支援
<p>○丹後地域の資源を活用した新たな加工食品づくりを実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産物を活用した新たな特産品「丹後の旨いもんづくり」を目指し、平成19年度に開発した加工食品を商品化し、販売開始（伸子イカ、しょうゆ干し、アカモクまぜご飯の素、海藻漬物、桑の実リキュール他） ・ 平成20年度に新たに支援する食品加工グループを公募し、旨いもんづくり委員会で支援する1つのグループを決定し、平成21年度の商品化に向けて支援 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 平成19年度採択の「桑の実リキュール」及び「海藻漬物」、「伸子イカ」、「アカモクまぜご飯の素」等を完成させ商品化し販売開始 ・ 平成20年度に新たに、支援グループを公募し、2グループ決定、サワラ加工品、フルーツジャム、フルーツ饅頭について商品化し販売開始 ・ 10月に管内の旅館のおかみさん団体や土産物店を対象に商品開発に向けた試食会を開催し、2団体の商品が旅館で販売 ・ 2月に大阪市内で開催された商談会へ2団体が出展、60社から商談があり、1団体（海藻漬物）が3社と商談成立 ・ 3月3日には、管内のバイヤー（29業者、50名）を集めて品評・商談会を開催（参加者148名）、管内のホテルの食前酒（桑の実リキュール）としての利用商談成立。3月7～8日にはSCマインで企画店舗販売を実施（5団体）

地域振興計画	生活・交通等基盤整備の推進	
事項 1	地域での生活や活動を支える条件整備と域内外の交流を活発にする基盤の整備	
運営目標	取組及び達成状況	
<p>○地域の交流・産業基盤を活性化させる高速交通ネットワークである鳥取豊岡宮津自動車道の延伸に向けて着実に事業を実施します。</p>	○	<p>▶9月13日、京都縦貫自動車道の綾部安国寺IC～京丹波わちIC間の開通により、宮津市～京都市間の所要時間が、従来の約120分から約105分に短縮 ▶合わせて、宮津天橋立IC～京丹波わちIC間の各ICにETC設備を完備し、ETC割引を開始 ▶鳥取豊岡宮津自動車道（宮津野田川道路）の「第12トンネル」の貫通式を4月17日に開催し、平成21年3月に完成</p>
<p>○丹後地域の骨格となる幹線道路の通年2車線確保を目指し、重点的な整備を図ります。 国道178号上野平バイパス：新規着手、国道482号丹後弥栄道路：継続して事業推進、国道312号橋爪道路：用地買収・橋梁下部工 ・鳥取豊岡宮津自動車道（野田川大宮道路）事業推進に向け支援。 （新規事業着手）味土野大宮線：用地買収 （供用開始箇所）国道178号府中道路：現道拡幅部の供用開始を目指す。</p>	○	<p>▶国道178号上野平バイパス 企画調査：平面測量中 国道482号丹後弥栄道路 幅杭設置、用地立会完了：用地交渉中 国道312号橋爪道路 用地買収、築造工事：実施中 国道178号府中道路 全線用地買収完了、平成21年末バイパス部供用開始予定</p> <p>▶用地立会が完了したため、用地買収に向け地元協議を進める。</p> <p>▶現道拡幅部300m完成、供用開始</p>
<p>○歩行者等の安心・安全を確保する道路整備を進めます。 （新規事業着手）・国道178号（宮津市里波見）：測量・調査 ・国道178号（与謝野町岩滝交差点部分）：測量・調査 （完成予定箇所）・国道312号交通安全（京丹后市久美浜町野中～永留） ・網野峰山線（菅橋側道橋）</p>	○	<p>▶国道178号（宮津市里波見） 測量・調査・橋梁詳細設計を実施 ・国道178号（与謝野町岩滝交差点部分） 用地買収・築造工事着手</p> <p>▶国道312号（京丹后市久美浜町野中～永留） 工区完了、供用済み</p> <p>▶網野峰山線（菅橋側道橋） 平成21年3月工事完成</p>
<p>○生活道路の整備のスピードアップを図り、効果的な整備を進めるための1.5車線的道路整備の推進 13路線整備予定</p>	○	<p>▶単独事業の箇所決定が9月中旬となったので、事業進捗が遅れたが、13路線の事業を整備中</p>
<p>○管内の各事業の事業進捗を図るため、用地取得事務の迅速かつ適正な実施に努め、地元関係者に十分説明し理解を得ながら、困難事案については、土地収用も視野に入れて、計画的かつ円滑に事業を実施します。</p>	◎	<p>▶年度当初に1件あった困難案件は、平成8年の用地立会以降、用地取得推進プロジェクトチームで協議しながら精力的に交渉を進めて来た結果、契約が出来た。 ・なお平成19年度当初には5件の困難案件があったが、19年度中に4件、今回、20年度で最後の1件が解決出来たので、丹後土木事務所では困難案件解決率100%になった。</p>

運 営 目 標	取組及び達成状況
<p>○公共事業については、府民協働による事業推進を積極的に進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワークショップ」や「出前語らい」等の実施により府民との協働を積極的に取り組み、地域づくりやまちづくりにつながる公共事業の整備及び取組の推進を図る。(20目標数 府民協働5,000人) ・ボランティア活動の推進及び将来に向けた参加拡大 (20新規目標数 10団体) 	<p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶事業計画説明会やボランティア等に多くの方に参加いただき、約12,600人の参加があった。 ▶府民協働による事業推進を積極的に進めており、当初目標を上回り、順調に推移している。(合計39団体) ・天橋立まもり隊：20団体、約1000名参加 ・さわやかボランティアロード：5団体が新規登録 ・たんご地域に愛される川づくり事業：14団体に認定書を授与(9月25日)
<p>○丹後地域における利用しやすい公共交通ネットワークの実現に向けて、交通事業者、管内市町及び地域とともに、「改善実行計画」に基づき、駅や公共施設での分かりやすい情報提供を充実させるとともに、駅周辺等の美化のための花いっぱい運動などの取組を実行していきます。</p> <p>また、管内市町の地域公共交通会議を支援します。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶伊根町が地域公共交通会議を設置(5月)したことから、管内4市町全てに同会議が設置され、局においても会議構成メンバーとして参画 ▶「分かりやすく使いやすい公共交通ネットワーク実現会議(第8回)」を開催(11月4日)、改善計画の進捗状況や今後の取組について協議。国制度「地域公共交通活性化・再生総合事業」を活用し、さらなる改善を実施(改善実施例) <ul style="list-style-type: none"> ・乗り継ぎや登校時間に配慮したKTR・バスダイヤの改正 ・交通空白地へのバス運行エリアの拡充、マップ付き時刻表の更新 ・KTRと丹海バスとの共同による観光フリーバス発売 など ▶花いっぱい運動(7月 一峰山 駅・府職員(ひまわり植え) <ul style="list-style-type: none"> 11月11日一丹後神野駅・約25名参加 12月13日一峰山 駅・約100名参加 ▶宮津線の主要駅(5駅)で、高校生によるコンサートと地域産品を販売する「KTR宮津線えきラリー」を実施 106名参加(11月2日)(バス関係) ▶府立高校3校(宮津高校、峰山高校、工業高校)が、地域の間伐材等を利用して天宮ロードパーク(京丹後市)にバス停を設置(2月17日完成)
<p>○北近畿タンゴ鉄道(KTR)の存在価値等について沿線市町と議論し、課題を明確にした上で、地域での利用客の増加に向け、市町・KTR利用促進協議会等の関係機関が連携して、ノーマイカーデー、駅チカ特産展の開催などの魅力ある駅づくり、企画列車・車両パインティングによる魅力ある鉄道づくりなどの利用促進の取組を広げるとともに、丹後広域観光キャンペーン協議会等の関係機関と連携した取組により、地域外からの誘客も進め、年間総輸送人員200万人を目指します。また、平成21年度サポーターズクラブ会員1万人 達成に向けて、会員向け企画、沿線市町によるPRの展開により、会員5,000人を目指します。</p>	<p>×</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶利用者数の状況 本年度輸送実績 <u>2,003,393人</u>(対前年度101.6%) ▶サポーターズクラブ、トレインオーナー会員の状況 総計 4,041口(クラブ会員2,422口、オーナー会員1,619口) (過去実績 ⑱2,232口、⑲3,078口) ▶国の地域公共交通活性化・再生事業を活用し、宮福線開業20周年記念事業、車両ラッピング、レンタサイクル活用事業、サイクルトレインの導入、各種企画切符・観光産業等と連携した企画プラン・企画グッズの発売等を実施 ▶地域団体が、KTRの利用促進等を目的に、KTRの各駅を題材にした映像作品「KTR駅物語」を制作・公開(地域力再生プロジェクト交付金で支援)
<p>○丹後NPOパートナーシップセンターを育成・交流・連携拠点として、府庁NPOパートナーシップセンターと連携し、NPOの組織運営力向上のための講座・交流会を5回以上開催するとともに、市町とも連携して、団体が主体的に事業展開できる環境を整えます。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶活動実績 <ul style="list-style-type: none"> ・丹後地域NPO団体による情報交換会(活動報告及び意見交換)を3回実施 ・「資金・支援を得るための基礎講座」及び「会計・税務の基礎講座」を実施 ・3月8日に、地域力再生フォーラムを開催し、NPOと地域力再生団体との意見交換会等を実施。より広範囲なネットワーク化を推進 ・丹後NPO紹介冊子ハンドブックによるネットワーク強化

地域振興計画	安心・安全、環境先進の地域づくり	
事項 1	子どもからお年寄りまで安心・安全で元気に暮らせる地域づくりと環境先進地をめざす地域づくりの推進	
	運営目標	取組及び達成状況
<p>○災害箇所の復旧事業の早期完了を着実に実施していきます。</p> <p><平成16年台風災害関連></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度完成を目指し、大手川の河川激甚災害対策特別緊急事業により改修事業を推進します。改築橋梁（全体13橋）の残り4橋の発注及び着手、完成4橋を目指す。 第1工区：大手川橋から京口橋区間における護岸工の概成を目指す。 第2工区：護岸工及び滝馬川改修の本格的着手。 第3工区：当該工区の護岸工関係について6～7割の概成を目指す。 滝馬川：砂防激甚災害対策特別緊急事業の全工事完成を目指します。 <p><平成19年1月冬季暴風波浪災害></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成20年度において農林関係施設の80%を完成し、残りの工事は平成20年度内に発注して、平成21年度には全ての完了を目指す。 	○	<p>▶橋梁改築の事業促進（全体で13橋の改築内1橋は鉄道橋梁）</p> <ul style="list-style-type: none"> 13橋梁の内平成20年度末で5橋梁完了。現在工事中の橋梁7橋。残り1橋については、平成21年度当初に発注予定。概ね目標通りの達成状況である。 <p>▶護岸工関係の事業促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1工区の護岸工関係施工中：残土処分地確保の関係でやや遅れている。 第2工区の掘削工、護岸工施工中：概ね全区間の暫定掘削工発注済み 第3工区の護岸工施工中：今年度目標である6～7割の概成が年度末で達成 <p>▶滝馬川：砂防激甚災害対策特別緊急事業は全工事を完成</p> <p>▶現在発注済みの工事は10月下旬に完成（全体工事の85%）</p> <ul style="list-style-type: none"> 残工事を全て12月に発注を完了。1シーズン前倒しで平成21年海水浴シーズンまでに全て完了の予定
<p>○水害からまちを守るために治水対策を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水害に強い安定した基盤整備及び道路交通の確保のため氾濫の多い主な河川の改修事業やネック箇所の解消を実施します。 福田川：橋梁工・護岸工 川上谷川：橋梁工・用地買収等 野田川支川（岩屋川・加悦奥川）：用地買収等・橋梁工 鳥取川：用地買収等 俵野川：護岸工 小西川：調査等 佐濃谷川：詳細設計等（橋梁・樋門） 	○	<p>▶福田川：橋梁工 野島橋上下部工完了、取合道路工施工中、掘削築堤工施工中</p> <ul style="list-style-type: none"> 川上谷川：用地補償交渉継続中 野田川支川（岩屋川）：単費により用地買収促進（加悦奥川）：宮野下橋下部工着手 鳥取川：用地立会・用地測量着手 俵野川：護岸工促進、施工中 小西川：浚渫工施工、治水対策検討中 佐濃谷川：浚渫工、鹿野橋予備設計、樋門詳細設計（平田地区） その他：浚渫工（竹野川・鱒留川・野田川・筒川等）
<p>○防災情報の充実及び収集による防災関係機関の連携強化並びに府民への素早い情報提供を図ります。（②河川監視カメラの設置 2箇所）</p>	×	▶筒川・宇川の2箇所施工中

運 営 目 標	取組及び達成状況
<p>○ハードとソフト一体となった総合的な土砂災害対策を推進し、市町が行う避難情報が迅速に発表できるよう危険箇所の周知など情報提供を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒区域等の指定拡大(㊟指定予定200箇所) ※ 全体1,717箇所(㊟269箇所、約16%) ・重点的、集中的な土砂災害対策の整備 砂防激甚災害対策特別緊急事業：「滝馬川」 今年度全工事完成を目指す。 急傾斜地防災対策事業：「河梨」 今年度第1工区完成を目指す。 ・土石災害から避難場所や避難路の保全を図る避難対策施設整備事業を推進。(㊟継続して6箇所について事業を推進) 	<p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶防災訓練(府：6月12日、京丹後市：6月26日)・市町防災パトロール(宮津市：5月26日、京丹後市：5月22日、伊根町：6月23日、与謝野町：7月1日)で、防災関連機関の連携を確認 ▶土砂災害警戒区域等の指定拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・合計208箇所指定済み ・京丹後市139箇所・伊根町9箇所 ・与謝野町45箇所・伊根町15箇所 ▶土砂災害対策の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・滝馬川 ダム工(A溪流完了) 平成20年度で砂防激特事業完了 ・河梨 第2工区 事業工区完了 第3工区 用地買収完、工事着手 ・その他 本庄宇治(伊根)、久僧(丹後町) 施工中 ▶地域防災対策(避難対策)事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・6箇所中2箇所は、平成21年度より補助事業に振り替え(本庄浜・間人谷)、1箇所(高梨川)は、経過観察とする。(特別警戒区域無しのため) ・新宮谷川：ダム工着手、林の谷川：用地測量実施中 ・間人小泊：施工中
<p>○災害に強い道路ネットワークの整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異常気象時の通行規制箇所の整備促進、災害時における孤立集落の解消するための事業推進 国道178号 由良～脇間：築造工 宮津市日置～長江間：築造工 伊根町蒲入～京丹後市丹後町袖志間：築造工 ・冬期の道路情報を素早く把握し提供するため路面監視システムを15箇所設置します。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶国道178号 由良～脇間 3工区：発注済み施工中 ・国道178号 宮津日置～長江間 2工区：発注済み ・国道178号 蒲入～袖志間 2工区：施工中、2工区：完成 ▶設置についての協議が完了し、設置場所も決定した。 ・予定していた15箇所を10月中旬に設置し、11月に使用開始
<p>○安心安全な地域医療体制の構築に向けた取組を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域保健医療協議会を継続し、丹後の医療連携体制の充実に向けた情報共有と発信をします。(協議会を2回以上開催) ・医療従事者や関係者等の情報交換の場の設定や、各機関による取組の把握等により、平成19年度の地域保健医療協議会で上げた「対策の方向」(小児医療の体制強化、認知症対策の推進等)の具体化の検討を進めます。 	<p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶丹後地域における医療連携の具体的な方策について検討するため、丹後地域保健医療協議会(8月28日、2月16日)、医療連携部会(10月7日、11月5日、12月19日)、作業部会(11月12日)を開催 ・医療連携のために情報共有、顔の見える関係づくりの必要性を確認。情報共有のツールとして「連携シート」案の作成、試行運用を決定 ・顔の見える関係づくりのためのシンポジウムを開催(3月12日) ▶小児科医師と乳幼児を持つ保護者との懇談会を実施(9月11日)し、保護者が子供の病気や受診についての知識を得、適正受診の啓発を進める。 ・認知症に関して医療関係者と地域ケア関係者との懇談の場(9月29日)の設定や、かかりつけ医認知症対応力向上研修(11月15日)の開催調整を行い、認知症対策における「相談体制・医療体制の充実」の推進を図る。 ・地域における認知症に対する正しい理解の促進や認知症ケアの充実のため、認知症ケアマネジメントセンター方式研修(7月10日)や認知症ケアネットワーク研修(10月24日)を開催 ・京丹後市が取り組む「認知症地域支援体制構築モデル事業」を支援し、認知症サポーター養成、地域資源マップづくり、徘徊訓練の実施などを通じ、京丹後市での認知症を地域で支える仕組みづくりが進む。

運 営 目 標	取組及び達成状況
<p>○新型コロナウイルス対策について、医療確保対策の推進のために、医療機関や医師会との検討会を2回開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の構築に向けて、各関係機関の対策を推進するために、発生時における対応マニュアルの作成に取り組めます。また、市町等関係機関会議の開催と広報啓発を実施します。 	<p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶新型コロナウイルス対策の医療確保対策推進のため、9月4日に地区医師会・医療機関等を対象にした研修会、10月9日に医療機関・地区医師会等の参加する医療機関連絡会議、12月25日に病院・市町・消防等関係機関連絡会議の3回の連絡会議等を開催 ▶危機管理体制の構築のために上記の連携のほか、市町等連絡会議を2回開催。また、関係者の理解促進のため病院、市町、消防機関毎に研修会開催 ▶1月30日に、関係機関の参加を得て、弥栄病院等において対応訓練を実施。この訓練に向けて、対応マニュアルを策定し内容の確認・習得等推進。また、10月27日の与謝の海病院、3月25日の久美浜病院での訓練に参加し、対応の習熟推進 ▶6月から毎月「NEWS」を発行するとともに、保健所棟内・振興局庁舎内に備蓄用品の展示を行うなど広報啓発を実施。また、地域の団体からの依頼を受けて、当対策に係る研修及び健康出前講座（45回、2,451名）を実施
<p>○高齢者施設における感染症対策の推進を図るため、感染症対策リーダー育成研修会を3回開催し、リーダーを養成、支援します。</p>	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶高齢者施設での感染症対策を推進するため、感染性胃腸炎の流行期を迎える12月までに、感染症対策リーダー養成研修会を4回開催し、リーダーを養成 ・施設の現状等を踏まえた対応策を協議・検討する予防対策検討会を4回開催。この検討状況を踏まえて、リーダーが施設内での指導に利用できるマニュアル、DVD等啓発資料を作成・配付し、施設内での感染対策を支援
<p>○児童相談所と連携し、要保護児童対策地域協議会未設置の2町（伊根町・与謝野町）の年度内早期設置に向けた支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所専任職員と児童相談所との連携を一層強化し、市町等と密接な連携体制のもとで、管内案件の掌握と地域での見守り活動などの対応に取り組めます。 ・虐待未然防止事業（子育てサポートカウンセリング）の継続実施や児童虐待防止にかかる広報活動を行います。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶保健所専任職員は、毎週福知山児童相談所のサポートチーム会議に出席する他、児童相談所と緊密に連携強化 ・要保護児童対策地域協議会未設置の2町（伊根町・与謝野町）は、11月末までに2町とも設置 ・未然防止事業（子育てサポートカウンセリング、丹後子どもの心のケア相談室を各々月2回程度実施）を広報啓発（ホームページ掲載、隔月発行の保健所だよりへの掲載（6回）など）
<p>○障害者の自立と社会参加を支援するため、「丹後圏域障害者自立支援協議会」を開催し、関係機関との連携強化を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議（1回） 専門部会（3部会 ①精神障害 ②就労支援 ③発達障害）各1回 ・峰山総合庁舎で毎週1回開催しているハートショップの開催などを通じて管内10共同作業所利用者の就労訓練等を支援します。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議は、3月11日に開催。運営委員会（2回）、専門部会（精神障害部会（2回）、発達障害（1回））開催。関係機関等との個別ケース会議による連携強化で障害者の支援を実施 ・峰山総合庁舎のハートショップは、継続開催。本年2月で開設1周年経過（売上累計約136万円） ・7月から、与謝野町加悦庁舎等でハートショップを開催開始 ・福祉と農業の連携「ダイコンプロジェクト」実施。国営農地で生産された大根の規格外品を有効活用し、障害者福祉施設での漬物などの製品づくりを支援
<p>○温泉利用宿泊施設に立入検査指導を行い、衛生管理の徹底を指導します。（対象186施設中93の事業所を目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉利用施設等に自主点検票を配布するとともに、観光旅館組合等と連携し、事業者による自主的衛生管理の取組を指導・支援する。 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・96施設に立入検査を実施し、自主点検表、啓発パンフレットを配布し、衛生管理を指導し、レジオネラ症予防を図った。温泉施設利用者からレジオネラ症患者の発生はない。 ・管内2会場で温泉法改正説明会（9月10日）を行い、温泉施設の衛生管理などを指導。40施設から責任者や担当者が参加

運 営 目 標	取組及び達成状況
<p>○国民文化祭の開催へ向け府民の気運を更に醸成するため、管内市町の独自の地域文化活動の支援をするとともに、各市町において1事業以上の事業に対し助成します。</p> <hr/> <p>○地域の環境改善や地域での環境保全等の取組を実施し、環境に優しい地域づくりを進めます。</p> <p>①阿蘇海及び天橋立の環境改善及び環境保全等（世界遺産）</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界遺産登録に向けた地域住民の気運をより高めるため、関係行政機関等による連絡会議を開催し、地域住民・関係団体・関係行政と連携した、環境面を含めた天橋立地域全体の保全を前提にした啓発活動を支援します。 <p>（阿蘇海）</p> <ul style="list-style-type: none"> 野田川等河川による流入負荷実態調査結果を踏まえ、阿蘇海に隣接する地元住民・団体・行政及び学識経験者で構成する「阿蘇海環境づくり協働会議」による計画的な住民啓発等を実施し、住民協働による環境改善及び環境保全の土壌づくりに取り組みます。 <p>＜天橋立公園の松並木の保全・利活用の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 天橋立を未来に引き継ぐため、府民協働体制の構築を図るべく、天橋立継承準備委員会の取組を継続して進めます。松林保全作業の継続、天橋立の価値の発掘・共有・情報発信、今後の利用のあり方について府民協働で検討（ビジターセンター整備等） <p>＜天橋立周辺地域での景観計画の取組の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 景観を活かしたまちづくりを支援するため、景観に配慮した公共事業を積極的に進めます。「天橋立周辺地域景観まちづくり計画」の平成20年秋施行を目指して、シンポジウムやリーフレット等による計画の周知とともに、ガイドライン策定により、景観形成基準の詳細内容や手続き等について理解を求めます。「景観まちづくりにつながる公共事業」 大手川：景観に配慮した護岸整備の推進 	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域文化活動支援事業：京丹後市及び与謝野町にて実施 地域における舞台芸術振興・次世代体験推進事業：京丹後市にて実施 地域力再生プロジェクト支援事業を活用し、宮津市では、丹後ちりめん着物ショー、伊根町では、伝統芸能の後継者育成を支援し、国民文化祭に向け気運醸成を図った。 <hr/> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶世界遺産登録暫定リスト記載に向け、地元住民の気運醸成を更に図るため関係団体と協力しシンポジウムを計3回開催 ・6月には天橋立をアピールするため2280人で天橋立を手と手でつなぐイベントを開催した。 ・9月26日の文化庁の発表を受け10月28日に検討委員会を開催し、今後の対応を検討。学識者のWGを1月28日に開催。暫定一覧表記載に向けて、取組を進めることを確認 ・関係行政機関等による連絡会議を1月13日に開催して情報共有し、関係市町の今後の取組について意見交換 ▶阿蘇海環境改善に向けた、計画的な啓発活動の展開 ・環境改善に向けた効果的な啓発と各団体での取組促進を図るため実務者会議を計4回、また、協働会議を開催 ・5月には「浅水代かき実演会」を行い、農業者に水環境に配慮した農法を推奨 ・与謝野町、NPO、町立小学校とも協働して環境改善資材の阿蘇海隣接水路への投入 ・小学生対象の環境改善絵画コンクールを実施、さらに阿蘇海の現状を伝えるパンフレット（自治会を通じた各戸配布）やコンクール作品を活用したポスターによる啓発活動による住民への環境改善の呼びかけを実施 ▶天橋立公園継承準備委員会開催（4回：4月、8月、11月、2月） ・天橋立まなび舎塾（2回：6月、9月） ・地元市町・観光協会等と連携してホームページ・チラシ配布・副読本の作成等による情報発信を行っており、引き続き地元団体等に協力を要請していく。 ・ビジターセンター：コンサルへの委託、地元メンバーによる検討会開催 ▶ガイドラインを策定し、天橋立周辺地域景観まちづくり計画説明会（4回）、「景観形成ガイドライン」意見交換会（1回）を実施 ・11月21日に「天橋立周辺地域景観計画」を施行 ▶大手川：過去のワークショップの決定事項を基本として、白壁の城壁復元等について関係機関と調整協議を重ね、基本方針等が決定され、平成21年度の出来る限り早い時期から着手することとする。 ・第1工区下流部における護岸については、出来る限り現地で発生した自然石材料を使用し、周囲の景観や過去の町並みを少しでも復元出来るよう対策を行っている。

運 営 目 標	取組及び達成状況	
<p>国道178号府中道路：歩道修景・電線地中化の推進 宮津養父線（宮津市文珠）：景観に配慮した歩道整備の着手 岩滝海岸線：景観に配慮した道路整備 防護柵景観配慮マスタープランを策定</p> <p>＜丹後天橋立大江山国定公園の利用と保全の取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度の自然公園ふれあい全国大会に向けての取組の推進（近畿自然歩道の点検・整備、国定公園内の案内板の整備） 利用施設整備の推進（袖志園地（経ヶ岬）の完成、蒲入園地の事業進捗） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶国道178号府中道路：現道部300m電線地中化完了 <ul style="list-style-type: none"> ・宮津養父線（宮津市文珠）：地中化計画協議中 ・岩滝海岸線：景観計画協議済、工事発注済 ・防護柵：マスタープラン策定協議中 ▶歩道の点検については、自然公園ふれあい全国大会のエコツアーコース（案）により、一部点検を実施する。ツアーコースの詳細決定後、再度点検を予定 ・歩道整備・案内板設置については、高嶋園地が完了。他の箇所については、自然公園ふれあい全国大会のエコツアーコースに係る整備を優先的に実施することを基本に、関係機関との協議により整備計画を決定する。なお、旧名称となっている既存サインの改修を実施中 ▶袖志園地（経ヶ岬）：トイレ改修工事中 蒲入園地：トイレ改修工事完了 	
<p>②「丹後海と星の見える丘公園」の利活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 丹後海と星の見える丘公園利活用連絡会議の開催や管内校長会等へのPRを行い、管内関係機関や団体、関連施設との連携及び公園情報の発信を強化して、年間利用者50,000人、環境プログラムへの参加6,000人を目指します。 	×	<ul style="list-style-type: none"> ▶宮津与謝各市町の校長会及び京丹後市4ブロックの各校長会をはじめ、山城地区校園長会へのPRを実施 ・来園者総数 <u>49,160人</u>（<u>19</u>44,316人）、環境プログラム参加者 <u>7,381人</u>（<u>19</u>5,618人）
<p>③丹後モデルフォレスト運動を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全市町に森林利用保全重点区域を1箇所以上指定します。（新規：宮津市、与謝野町各1箇所） 企業や団体が参加して取り組む森づくり活動を展開します。（2回以上開催） 森づくりフォーラム等の開催を通じて、地域住民、企業、団体等に普及啓発を図ります。（フォーラム1回、ホームページ掲載） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ▶重点区域指定の地元調整が完了し、重点区域森林利用保全計画案を作成 ・企業のCSR活動や地域協働の植樹祭を開催 <ul style="list-style-type: none"> 10月 7日 アストラゼネカ（株）の森林ボランティア受け入れ 11月 1日 宮津ふるさとの森を育てる協議会設立記念植樹祭開催 11月30日 竹林ボランティア活動支援（与謝野町重点区域予定地） ・森づくりの普及啓発を図るため、フォーラムを1回(3/7)開催。ホームページで森づくり情報を随時発信
<p>④野生鳥獣による被害の軽減を図るため、地域住民と共に捕獲の担い手育成や生息環境整備等の対策を総合的に展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル地区を設定し、地域住民と共に被害防除計画を作成し、バッファゾーン造成等を実施して野生鳥獣被害ゼロの村づくりを行います。（2地区） 平成19年度までに実施したモデル地区において、事業効果を検証しフォローアップを行います。（検証：3地区、フォロー：1地区） 捕獲担い手確保のための免許取得のPRと免許取得講習会開催を支援します。（新規免許取得者数：20名） 地域住民自らが鳥獣被害防除に取り組むことができるように、各地で研修会を開催します。（6回） 	○	<ul style="list-style-type: none"> ▶モデル地区（2地区）を設定し、バッファゾーン整備と被害防除計画を策定（宮津市日置、京丹後市久美浜町佐野） ・効果検証を、3箇所実施し、京丹後市丹後町袖志で地域住民と共に進入経路の確認や保守点検等のフォローアップを実施 ・平成20年度新規狩猟免許者24名を確保 ・農林家を対象に防除柵の張り方などの被害対策研修会を8回実施

運 営 目 標	取組及び達成状況	
<p>⑤森林の多様な機能発揮のための間伐・利用間伐を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高性能林業機械を活用した利用間伐団地を2地区設定し、森林組合等の事業体と連携して間伐の推進と間伐材の搬出・出荷を進めます。 <p>間伐実施面積 <u>500ha</u> 間伐材出材量 <u>1,000m3</u></p>	×	<p>▶間伐面積281ha（見込み）、出材600m3（見込み）</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用間伐団地2箇所（三原、尉ヶ畑）については地元調整済み、平成21年度に、高性能林業機械を活用した利用間伐を実施予定
<p>⑥「農と環境を守る地域協働活動支援事業（農地・水・環境保全向上対策）」を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内全ての市町において共同活動組織を立ち上げ、取組面積を拡大します。（新規市町：伊根町。拡大面積：<u>140ha</u>） 優良な活動組織の事例報告等の情報提供に努め、人材、指導者育成を推進します。 先進的な営農活動を行う活動組織を立ち上げるため、普及・啓発活動を行います。（新規<u>3地区</u>） 	○	<p>▶新規に伊根町、宮津市、京丹後市の8活動組織、<u>179ha</u>で新たな取組を展開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内活動事例報告会（8月7日）を開催して、活動の充実を図った。 市町と協議を継続実施し、事業周知と掘り起こしを行うとともに、問い合わせのある地区へ説明を行い（3月）、翌年度に向けた検討を行った。

運営目標の	◎：目標を上回って達成	○：概ね目標を達成	×：目標を達成できず	合 計
達成状況	11	25	8	44